教員インタビュー

「家族の支えがあるから」

食物栄養学科
学科長補佐　清澤　朋子先生

清澤先生はなぜ、地元の秋田県を離れて弘前大学に進学されたのですか？

ホラー小説「パラサイト・イブ」や「リング」「らせん」に影響を受けました。あまり覚えていませんが、DNAや二重らせんなどの遺伝暗号とかがかっこいいなと思って、勉強してみたくて農学生命科学の道へ進みました。あとは、都会に出るのがちょっと恐ろしくって（笑）。近くて安心な隣の青森県を選びました。

私（記者O）は現在、子育てしながら学校に通っていて、両立するのが本当に大変だと感じています。今春、育休から復帰された清澤先生も、両立が大変なのではないでしょうか？

社会人のみなさんこそ、両立して授業も課題も意欲的に頑張っていますよね。いつも感心しています。私は家族が自由がきく職業なので、家のことや子どものことはお任せすることが多いです。「働く女性の一員として」などと言えないぐらい、家族にお願いしています。

私（記者S）は先日、栄養教諭になるための教育実習を中学校で行ってきました。生徒の前で授業をしてきたところなのですが、どのようにして大学の授業が作られているのか気になりました！

Sさん、とってもイキイキしていて素敵ですね。充実した教育実習だったんですね！

大学の授業ですが、私たちの目標は「科学的根拠に基づきながらも対象者に寄り添った栄養士」を育てることです。そして、栄養士を養成する施設として、理解しておいてほしい内容や身につけてほしい能力、目標がいくつかに決められています。あとは学科の先生方で、「一番学びやすく、理解しやすく、印象に残りやすくするためには、どのような授業を、どんな順番でしたらいいか？学生がいかに力をつけて卒業するか」を考えています。授業で学んだことを組み合わせて活用できるように、科目のつながりに特に気を使っています。

みなさんが主体的に勉強するための方法について講習会に行かせてもらっています。グループワークの方法や課題の出し方などを勉強しているので、みなさんから「〇〇が分かった」「〇〇だと思う」などの意見を楽しみに、授業の準備をしています。

好きな言葉は「ま、いっか！」です。最近は何かと自分の思う通りにできないことも多くて、ダメだなーと落ち込みがちなんですが、例えば、休日に子どもと公園に出かける約束をしたのに、「行けなくなっちゃってごめんね」と謝った時に、娘が「うちで遊ぶのも楽しいし、ま、いっかー。一緒にかくれんぼしよう」って言ってくれて。娘の「ま、いっか！」に救われています。「ま、いっか！」で前向きに頑張りたいです！

（図鑑を出して）こういうの、色がキレイでしょう。先生が授業で言っていることをメモするのがすごく好きだったんですよ。